

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年11月7日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 大
 コード番号 7458 URL <http://www.dkkaoko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 三郎
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 小林 成樹 (TEL) 03(3280)2151
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日 配当支払開始予定日 平成23年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	62,150	2.2	9,111	△0.1	9,944	3.8	5,256	△2.4
23年3月期第2四半期	60,833	△2.6	9,124	7.3	9,575	5.8	5,388	△5.2

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 4,792百万円 (△11.9%) 23年3月期第2四半期 5,442百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	81.99	—
23年3月期第2四半期	81.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	137,343	89,791	64.7
23年3月期	137,447	88,034	63.4

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 88,809百万円 23年3月期 87,083百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	25.00	—	30.00	55.00
24年3月期	—	25.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	30.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	127,000	△0.7	18,000	9.0	19,400	11.1	10,500	9.5	165.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 — 社（社名） 、除外 — 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期2Q	64,220,596株	23年3月期	64,220,596株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	785,563株	23年3月期	2,813株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年3月期2Q	64,113,999株	23年3月期2Q	65,747,015株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P. 4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年9月30日、以下「当期間」という。）におけるわが国経済は、東日本大震災後のサプライチェーンの復旧が急速に進むなか、企業の生産や個人消費の一部に回復の兆しを見せる一方、欧州の財政問題などの金融不安を背景に長期化する円高・株安の影響から、先行き不透明な状況で推移いたしました。

この様ななか、当社グループにおきましては、業務用カラオケ事業の成長分野であるエルダー市場の開拓に注力いたしました。カラオケ・飲食店舗事業におきましては、新規店の出店を抑え既存店の収益改善施策に注力いたしました。また、音楽ソフト事業におきましては、前年同期に計上したアミューズメント機器向けの一時的な売上の剥落に加え、震災後の新作リリース自粛などの影響もあり、収益は厳しい状況で推移しました。

以上の結果、当期間の売上高は音楽ソフト事業とその他の事業が減収となったものの、業務用カラオケ事業とカラオケ・飲食店舗事業が増収となり62,150百万円（前期比2.2%増）となりました。利益面におきましては、カラオケ・飲食店舗事業が増益となったものの、業務用カラオケ事業と音楽ソフト事業の減益により営業利益は9,111百万円（同0.1%減）、経常利益は営業外収支の改善により、9,944百万円（同3.8%増）となりました。一方、四半期純利益は、一部事業の撤退に伴う特別損失の計上と税負担の増加により5,256百万円（同2.4%減）となりました。

（百万円）

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	60,833	62,150	1,316	2.2%
営業利益	9,124	9,111	△13	△0.1%
経常利益	9,575	9,944	368	3.8%
四半期純利益	5,388	5,256	△131	△2.4%

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、昨年10月発売した「LIVE DAM (DAM-XG5000)」は、既存機種との差別化商品としての評価も高く、出荷是好調に推移いたしました。また、重点戦略として取り組む低シェア地域での営業強化に加え、取組みを強化したエルダー市場での端末導入台数が着実に増加するとともに、被災地域での再開需要などもあり、安定収益の基盤となる「DAM」の稼働台数および機器賃貸件数は順調に増加いたしました。

（百万円）

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	30,509	31,402	892	2.9%
営業利益	6,867	6,653	△214	△3.1%

主要数値

	単位	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
DAM稼働台数	千台	225.4	227.3	1.9	0.9%
（うちブロードバンド稼働台数）	千台	(107.3)	(112.2)	(4.9)	4.5%
機器賃貸契約件数・9月末	千件	62.7	64.3	1.6	2.5%
DAM出荷台数・9月末	千台	11.7	13.2	1.5	12.4%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、期初においては震災後の自粛ムードから弱含みで推移したものの、期半ばからは一転して被災地域を中心とした震災の復興需要やレジャーの「安・近・短」志向の高まりから、「カラオケ」が身近な娯楽として再評価されるなど、集客は回復基調で推移いたしました。また、多様な地域や消費者ニーズを取り込むため、「ビッグエコー」のマルチブランド化や飲食店舗における業態変更などに積極的に取り組むなど、既存店の収益回復に注力いたしました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	19,553	21,369	1,815	9.3%
営 業 利 益	2,591	3,123	531	20.5%

主要数値

	単位	前第2 四半期末	前期末	当第2 四半期末	当期増減	当期増減率
カラオケ店舗数	店	277	291	290	△1	△0.3%
(うち複合店舗数)	店	(34)	(31)	(30)	(△1)	△3.2%
カラオケルーム数	ルーム	7,580	7,902	7,867	△35	△0.4%
飲食店舗数	店	109	115	115	—	—
飲食店舗座席数	席	13,816	14,563	14,682	119	0.8%

(音楽ソフト)

当事業におきましては、コストコントロールによる経営の効率化が定着するなか、「北島三郎」(日本クラウン)や「Perfume」(徳間ジャパンコミュニケーションズ)などの主力アーティストの作品群やスタジオジブリのDVDが収益に貢献いたしました。また、利益率の高い音楽配信では、「ソナーポケット」(徳間ジャパンコミュニケーションズ)が貢献いたしました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	5,964	4,996	△968	△16.2%
営 業 利 益	691	376	△315	△45.6%

当期間に貢献した主なアーティスト

	アーティスト名
CD/DVD	スタジオジブリ作品 SKE48 Perfume 北島三郎 ほか
音楽配信	ソナーポケット Perfume Tiara スタジオジブリ関連楽曲 ほか

(その他)

当事業におきましては、携帯電話向けコンテンツサービスと衛星放送事業の加入者数は減少傾向にあることから、コンテンツの統廃合などのコスト低減に努める一方、衛星放送事業の不採算となっていた一部事業を平成24年3月末に撤退を決定するなど、収益の改善に注力いたしました。また、ホテル事業やパーキング事業なども軟調に推移いたしました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	4,806	4,382	△423	△8.8%
営 業 利 益	463	393	△69	△15.1%

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ103百万円減少し、137,343百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、その他に含まれる前払費用が986百万円及び現金及び預金が273百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が3,641百万円減少しております。

固定資産では、土地が4,253百万円増加し、無形固定資産のその他に含まれる音源映像ソフトウェアが696百万円及び投資有価証券が664百万円それぞれ減少しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,861百万円減少し、47,552百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では、未払法人税等が1,195百万円増加し、支払手形及び買掛金が2,498百万円減少しております。

固定負債では、長期借入金が1,201百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,757百万円増加し、89,791百万円となりました。

これは主に、当期純利益による利益剰余金の増加5,256百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少1,926百万円及び自己株式の取得による減少1,104百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下資金という。）は、前連結会計年度末に比べ511百万円増加し、27,085百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が9,171百万円、減価償却実施額が6,691百万円、売上債権の減少が3,635百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ4,418百万円増加し、14,488百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が8,468百万円、無形固定資産の取得による支出が1,437百万円及び映像使用許諾権の取得による支出が664百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ1,494百万円増加し、10,109百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出が2,220百万円、配当金の支払額が1,925百万円及び長期借入による収入が1,300百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ882百万円減少し、3,840百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期におきましては、3月に発生しました東日本大震災の影響を受け厳しい状況が続くものと予想しておりました。しかしながら、当第2四半期連結累計期間においては、主力の業務用カラオケ事業の出荷が好調に推移したほか、カラオケ・飲食店舗事業においては、既存店が回復基調で推移した結果、営業利益、経常利益および四半期純利益ともに予想を上回ることとなりました。

通期の業績予想につきましては、景気の先行きは不透明であり個人消費の低迷も予想されるなど環境は厳しさを増している状況であります。第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、平成23年6月13日発表の業績予想から修正いたします。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通期	127,000	18,000	19,400	10,500

(注) 上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第1 四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,955	27,229
受取手形及び売掛金	10,597	6,956
たな卸資産	7,354	6,515
その他	5,936	7,290
貸倒引当金	△397	△251
流動資産合計	50,446	47,740
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	6,300	6,515
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	14,735	14,649
土地	19,143	23,397
その他（純額）	6,906	6,805
有形固定資産合計	47,085	51,367
無形固定資産		
のれん	641	545
その他	7,421	6,604
無形固定資産合計	8,063	7,150
投資その他の資産		
投資有価証券	12,919	12,254
敷金及び保証金	13,198	12,698
その他	6,018	6,415
貸倒引当金	△283	△283
投資その他の資産合計	31,852	31,085
固定資産合計	87,001	89,602
資産合計	137,447	137,343

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,091	3,592
短期借入金	5,465	5,879
未払法人税等	3,120	4,315
賞与引当金	1,121	1,398
その他	9,599	9,710
流動負債合計	25,398	24,896
固定負債		
長期借入金	16,831	15,629
退職給付引当金	3,011	3,147
役員退職慰労引当金	2,318	2,140
負ののれん	234	212
その他	1,618	1,525
固定負債合計	24,014	22,655
負債合計	49,413	47,552
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	14,035	14,035
利益剰余金	61,552	64,883
自己株式	△4	△1,108
株主資本合計	87,934	90,160
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	91	△337
土地再評価差額金	△777	△777
為替換算調整勘定	△164	△236
その他の包括利益累計額合計	△851	△1,351
少数株主持分	951	982
純資産合計	88,034	89,791
負債純資産合計	137,447	137,343

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	60,833	62,150
売上原価	34,828	36,336
売上総利益	26,005	25,813
販売費及び一般管理費	16,881	16,701
営業利益	9,124	9,111
営業外収益		
受取利息	81	354
受取配当金	39	43
受取協賛金	245	252
貸倒引当金戻入額	—	119
負ののれん償却額	23	21
その他	318	359
営業外収益合計	707	1,151
営業外費用		
支払利息	100	147
その他	156	170
営業外費用合計	256	318
経常利益	9,575	9,944
特別利益		
固定資産売却益	13	19
投資有価証券売却益	7	19
投資有価証券償還益	148	—
貸倒引当金戻入額	56	—
退職給付引当金戻入額	107	—
その他	54	—
特別利益合計	387	39
特別損失		
固定資産処分損	149	107
関連事業整理損	—	680
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	440	—
適格退職年金制度廃止損	531	—
その他	47	24
特別損失合計	1,168	812
税金等調整前四半期純利益	8,794	9,171
法人税、住民税及び事業税	3,863	4,241
法人税等調整額	△547	△362
法人税等合計	3,315	3,878
少数株主損益調整前四半期純利益	5,478	5,292
少数株主利益	90	35
四半期純利益	5,388	5,256

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,478	5,292
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	45	△428
為替換算調整勘定	△81	△71
その他の包括利益合計	△36	△499
四半期包括利益	5,442	4,792
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,352	4,757
少数株主に係る四半期包括利益	90	35

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,794	9,171
減価償却費	6,005	6,691
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	440	—
負ののれん償却額	△23	△21
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△77	△146
賞与引当金の増減額 (△は減少)	294	276
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	35	△178
受取利息及び受取配当金	△120	△397
支払利息	100	147
固定資産処分損益 (△は益)	135	87
売上債権の増減額 (△は増加)	204	3,635
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△201	833
カラオケ貸貸機器の売上原価振替	256	156
仕入債務の増減額 (△は減少)	470	△2,487
その他	△974	△383
小計	15,340	17,386
利息及び配当金の受取額	119	307
利息の支払額	△97	△145
法人税等の支払額	△5,293	△3,060
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,069	14,488
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期性預金の預入による支出	△157	△68
定期性預金の払戻による収入	80	103
有形固定資産の取得による支出	△4,334	△8,468
有形固定資産の売却による収入	41	141
無形固定資産の取得による支出	△2,127	△1,437
映像使用許諾権の取得による支出	△661	△664
投資有価証券の取得による支出	△51	—
投資有価証券の売却による収入	43	39
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,083	—
貸付けによる支出	△285	△250
貸付金の回収による収入	222	290
敷金及び保証金の差入による支出	△705	△351
敷金及び保証金の回収による収入	190	620
その他	213	△63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,614	△10,109

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	362	132
長期借入れによる収入	1,250	1,300
長期借入金の返済による支出	△3,258	△2,220
配当金の支払額	△1,971	△1,925
自己株式の取得による支出	△1,096	△1,104
その他	△9	△21
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,722	△3,840
現金及び現金同等物に係る換算差額	△55	△26
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,323	511
現金及び現金同等物の期首残高	33,877	26,573
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,554	27,085

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	30,509	19,553	5,964	56,027	4,806	60,833	—	60,833
セグメント利益 (営業利益)	6,867	2,591	691	10,150	463	10,613	△1,488	9,124

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、衛星放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,488百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	31,402	21,369	4,996	57,767	4,382	62,150	—	62,150
セグメント利益 (営業利益)	6,653	3,123	376	10,152	393	10,546	△1,434	9,111

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、衛星放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,434百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。